

令和6年度

# 「運営に関する計画」 (最終反省)

大阪市立大和川中学校  
令和7年2月

# 大阪市立 大和川中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

数年前に学校の秩序が乱れ、大きな学校崩壊を経験し、学校再建として大阪市教育振興計画の第1ステージ（平成25年度から28年度）の27年度より「秩序構築」をテーマに「時間を守る、ルールを守る心の育成」を進めた。学校行事の取り組みとして1年生入学時に宿泊オリエンテーションを取り入れ、「時を守り、場を清め、礼を正す」の自主自律の精神の育成、また「命を考える」教育活動の柱とした「平和維持学習」の取組みにより、「自律する力、他者を意識し思いやる心」の育成を教職員一丸となって進めてきた。その結果、年々生徒の規範・規律意識も高まり、生徒は安定した状況で学校生活や落ち着いた授業を取り戻すことができている。取り組みから10カ年を経て、学校が安心して安全に生活できる学校へと大きく変わることができ、令和5年度末の校内調査において、「学校のきまりや規則を守っていますか」の項目に対し、肯定的な回答がほぼ100%と指導がしっかりと浸透してきた。しかし、将来の夢や希望についての目標設定についての項目では、肯定的な回答が67%と低く、また、学習習慣についても「自分で計画を立てて勉強をしていますか」では52%と、家庭での学習習慣の定着していない生徒が多い。基礎学力の向上までには、今一歩及んでいない。令和5年度より「国語」「数学」「英語」の3教科において全学年において、特に数学においては、全時間で習熟度別授業をすすめた。今後も生徒一人ひとりが「学びへの意欲」や「学ぶこと、考えることの楽しさ」を味わえる授業づくりに取り組んでいく。「誰一人取り残さない学力の向上」の取組みとして、引き続きICTを活用しながら毎時間の授業や学びの振り返りや単元テストで日々の「生徒のつまづき」や課題の把握をし、教師の授業改善や「生徒一人一人の学びを最大限に引き出す個別最適な学びの実現」をすすめる。それにより、生徒が「学ぶ楽しさ」を実感し、教師にとっても「教える喜び」につなげる。

大和川中学校が「安全で安心して集団生活を送ることができる」最高の学びの場を構築する。

### 中期目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査の「学校では、命を大切にし、人権を尊重する心と態度を育てるための学ぶ機会が多くある」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、肯定的な回答をする割合を90%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査の「授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、80%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な回答をする割合を70%以上にする。
- 規則正しい生活を身に附けている児童生徒の割合（校内調査の「朝食を毎日食べていますか」、「毎日同じくらいの時間に早寝・早起きしていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合）を令和7年度調査において、70%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度において、年間授業日の50%以上で生徒の80%以上の学習者用端末の活用を推進する。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。]特に、心の天気などで生徒の心の状態や日々の状況把握をすることで、いじめや不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応に役立てる。
- 令和7年度において「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を60%以上にする。また、基準2を満たす教員の割合を90%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
- 年度末の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を60%以上にする。
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を60%以上にする。
- 年度末の校内調査における「授業はわかりやすい」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を80%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を60%以上にする。また、基準2を満たす教員の割合を90%以上にする。
- 年度末の校内調査における「日々の学校活動や授業、家庭学習の中で学習者用端末やICT機器を活用している」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を80%以上にする。

## 3、本年度の自己評価結果の総括

### 【安全・安心な教育の推進】

学校行事の取組みとして1年生入学時に宿泊オリエンテーションを取り入れ、「時を守り、場を清め、礼を正す」の自主自律の精神の育成、また「命を考える」教育活動の柱とした「平和維持学習」の取組みにより、「自律する力、他者を意識し思いやる心」の育成を進めた。

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合が80.4%であった。いじめアンケートを実施することで早期発見し、いじめについて学校が認知した対応率は100%であった。今後も生徒会を中心となって、いじめ防止に取り組み生徒が主体的にいじめに対する意識向上に取り組む。
- 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率は令和5年度の14.4%から10.7%に減少した。また、年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合は令和5年度の17.1%から20.5%と増加した。チャレンジルームを活用することなど、「いつでも、どこでも学べる」環境づくりを今後も推進していく。
- 年度末の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は、92.3%であった。目標に達してはいるが、今後も社会体験や進路決定に向けての活動を通して、自分の将来を考えさせるきっかけをつくるようにさまざまな活動を実施していく。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学習習慣については、家庭での学習習慣の定着していない生徒が多い。基礎学力の向上までは、今一歩及んでいない。「国語」「数学」「英語」の3教科では、全学年において、習熟度別授業やチームティーチングを行い、特に数学においては、全時間で学年単位での習熟度別授業をすすめた。今後も生徒一人ひとりが「学びへの意欲」や「学ぶこと、考えることの楽しさ」を味わえる授業づくりに取り組んだ。今後も「誰一人取り残さない学力の向上」の取組みとして、毎時間の授業や学びの振り返りや単元テストで日々の「生徒のつまづき」や課題の把握をし、授業改善や「生徒一人一人の学びを最大限に引き出す個別最適な学びの実現」をすすめていく。

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合は、32.5%であった。ICTを活用することなど授業改善を図り、「生徒一人一人の学びを最大限に引き出す個別最適な学びの実現」をすすめていく。
- 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に對して、最も肯定的な「好き」と回答をする生徒の割合は、51.5%であった。
- 年度末の校内調査における「授業はわかりやすい」に対して、肯定的な回答する生徒の割合は、81.4%であった。「国語」「数学」「英語」の3教科では、全学年において、習熟度別授業やチームティーチングを行い、特に数学においては、全時間で学年単位での習熟度別授業をすすめたため、目標を達成できた。今後も、教材研究を進め、習熟度別授業に適した内容、方法の改善を図っていく。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 「個別最適な学びの実現」に向けて、ICTを効果的・効率的に活用し、生徒一人ひとりの学びを深めたり、広げたりできるように。各教科では、家庭での学習を進めるためデジタルドリル「navima」やスタディサプリを活用し、生徒一人ひとりの学びを最大限に引き出せるよう進めていく。
- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数は、年間授業日の0%であった。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合は、30%であった。また、基準2を満たす教員の割合は63%であった。
- 年度末の校内調査における「日々の学校活動や授業、家庭学習の中で学習者用端末やICT機器を活用している」に対して、肯定的な回答する生徒の割合は、81.4%であった。

大阪市立大和川中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>○年度末の校内調査における、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>いじめ・差別を許さない学校づくり。人権学習の年間計画を立て計画的に実践する。</p> <p>いじめアンケート調査・生徒教育相談を定期的に行うと共に、生徒ボードの活用を高め一人ひとりの生徒情報・心の天気を把握し、共通理解を深め、適切な指導を進める。</p> <p><b>指標</b>：生徒教育相談・保護者懇談を各学期に実施し、いじめの正体の学習を系統的に取り組む。いじめアンケートを毎月実施し、検証する。令和6年度末の校内調査において、学校が認知したいじめについては、解消に向けての対応率を100%にする。</p>	B
<p><b>取組内容②【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>宿泊オリエンテーションを柱とした秩序構築を進める。新たに不登校になる生徒をうまない、学級・学年集団づくりを進める。家庭との連携を深め、きめ細かい生徒指導を行う。</p> <p><b>指標</b>：校内調査における「学校に行くのが楽しい」の項目の肯定的な回答を令和5年度より5ポイント向上させる。主任会・職員会議・運営の計画等での生徒情報共有。保護者・関係機関との連携。SSWを中心としたケース会議。不登校対策委員会（年3回以上）行う。</p>	B
<p><b>取組内容③【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>年間指導計画にそって、防災・減災に関する授業（講話、説明、地域防災訓練への参加）や「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。学級活動や各教科横断での継続した防災学習に取り組む。</p> <p><b>指標</b>：火災想定と地震想定の避難訓練をそれぞれ年1回、救急救命法（AEDを含む）の講習を各学年、年間2時間以上実施する。学校保健委員会を中心に生徒活動を進める。住吉区地域防災訓練に全校生徒で参加する。</p>	B

<p>取組内容④【施策2 豊かな心の育成】</p> <p>全ての教育活動を通して、「あいさつがしっかりできる、人の立場にたって考え方行動できる」人づくりを進める。年間35時間の道徳の時間を大切に活用する。読み物資料等を活用し、道徳授業づくりを進める。「命を考える」教育活動を柱とした平和維持学習に取組み、「自立する力、他者を意識し思いやる心」の育成を図る。</p>	B
<p>指標：校内調査の「人の役に立つ人間になりたい」85%以上、「家庭や学校、地域ですすんであいさつをしている」95%以上にする。特に道徳の授業では、読み物資料を活用し、年次研修教員中心に公開授業を行う。また校内調査の「学校では命の大切さについて学ぶ機会が多い」95%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑤【施策2 豊かな心の育成】</p> <p>社会体験（キャリア教育、職業講話、ボランティア活動等）実施し、自分の将来を考えるよう指導する。また、進路選択への情報提供をきめ細かく行う。</p> <p>校内調査の「自分の将来のこと（進路）や生き方について考えている。将来の夢や目標を持っている。」60%以上にする。</p>	B
<p>指標：職業講話（1年）、職業体験（2年）、高校出前授業体験（3年）、またボランティア清掃（年1回以上）を実施する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①【施策1】</p> <p>いじめアンケート調査・生徒教育相談を定期的に実施することができた。いじめアンケートはICTを活用し行っている。生徒教育相談、保護者懇談では、生徒一人ひとりの実態把握、情報共有に努めている。</p>	
<p>取組内容②【施策1】</p> <p>宿泊オリエンテーションを予定通り実施することができた。宿泊オリエンテーションを柱とした秩序構築を行っている。また、校内での情報共有、状況に応じて関係機関、ケース会議を定期的に実施することで、きめ細かい生徒指導に努めた。</p>	
<p>取組内容③【施策1】</p> <p>定期的に校内での防災訓練（地震・火災想定）を実施した。</p>	
<p>取組内容④【施策2】</p> <p>学校生活を通し、他者を意識し、あいさつ活動を大切にした教育活動を行うことに努めた。道徳授業では読み物資料を活用し多面的に思考できる授業を行っている。7月には授業力向上のための研究授業・研究協議も行った。チャレンジルームの先生方を中心に要支援生徒の状況把握にも努めた。</p>	
<p>取組内容⑤【施策2】</p> <p>1年は1月に職業講話を実施予定である。2年は9月にはSPトランプを実施していただいた。また、11月下旬に職業体験を実施予定である。3年は7月に高校出前授業体験を実施し、9月には面接出前授業を実施していただいた。1年2年合同で7月に地域清掃を実施した。また、3年を中心に、進路の手引きの作成、進路説明会や進路学習、説明会の案内など進路選択への情報提供をきめ細かく行っている。</p>	

## 次年度への改善点

### 取組内容①【施策1】

生徒一人ひとりの情報を把握し、適切な指導を行うためにも、生徒ボードの活用に関しては、今後も活用を行い教職員での共通理解を深めていく必要がある。対応率は100%であったが、今後もいじめについて学校が認知すること、解消に向けての対応を徹底していく。

### 取組内容②【施策1】

校内調査において「学校に行くのが楽しい」と肯定的に答えた生徒が昨年度より3.1%向上した。不登校生徒に対しては、チャレンジルームとも連携していく。状況に応じて外部との関係諸機関とも連携し、ケース会議等を定期的に実施していく必要がある。

### 取組内容③【施策1】

今年度は、地震想定の避難訓練を2回実施、救急救命法（AEDを含む）の講習を全体で1回（3時間）実施した。今後も、生徒の防災に対する意識を高めていき、地域の防災活動につなげていく必要がある。

### 取組内容④【施策2】

校内調査において、「人の役に立つ人間になりたい」と肯定的に答えた生徒が92.3%、「家庭や学校、地域ですすんでいきたい」と肯定的に答えた生徒が86.3%であった。今後も、子どもたちが自発的に行動できるよう、日々の教育活動を行っていく。

### 取組内容⑤【施策2】

各学年で計画通り実施できた。校内調査において、「自分の将来のこと（進路）や生き方について考えている。将来の夢や目標を持っている。」と肯定的に答えた生徒が59.8%であった。60%に近い割合であった。今後の状況によっては急な予定変更も考えられるが、できる限り社会体験や進路決定に向けての活動を行い、子どもたちが自分の将来を見据えるきっかけ作りができるよう柔軟に対応していきたい。

大阪市立大和川中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を60%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答をする生徒の割合を60%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「授業はわかりやすい」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を80%以上にする。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① <b>【施策4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>5教科で単元テスト・小テストを実施する。A I ドリルの活用や学習の振り返りを早く短い期間で行う事で、早期問題解決につなげる。個別の学習支援を放課後や長期休業中などの生徒自主学習時間を設定し、生徒の自主学習を支援する。</p> <p>指標：中間テストを廃止し、小テスト・単元テストを実施する。きめ細かな個別の学習支援を行う。</p>	A
<p>取組内容② <b>【施策4 誰一人取り残さない学力の向上】</b> 国語・数学・英語における個に応じた学習内容および習熟度別授業等を行う。(習熟度レベル上位層の更なる伸長および、下位層の引き上げにむけた取り組みを行う。)</p> <p>指標：校内調査における「授業はよくわかる」「先生に質問しやすい」の肯定的な回答を80%以上にする。</p>	A
<p>取組内容③ <b>【施策5 健やかな体の育成】</b></p> <p>全国体力・運動能力、運動習慣調査で「長座体前屈」「シャトルラン」の項目を昨年度より2ポイント増加を目指す。(大阪市平均を上回る)</p> <p>指標：体力の保持増進のために基本的生活習慣を身につけさせる。また、毎時間、補強運動を行わせ基礎体力を身につけさせる。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容① <b>【施策4】</b></p> <p>単元テストを繰り返し、中期ではそれまでの単元テストを振り返るというように、短期の学習成果の積み重ねができるよう取り組み、問題解決に努めている。補充学習などの取り組みも、一部ではあるが3年生を中心に、生徒が主体的に参加している。</p> <p>取組内容② <b>【施策4】</b></p> <p>「授業はよくわかる」79%、「先生に質問しやすい」74%が肯定と、指標を達成できていない。「先生は授業を工夫してくれている」は肯定意見が89%で、習熟に合わせた教材研究を進めている。</p>	

### 次年度への改善点

#### 取組内容①【施策4】

前期の評価を受けて、生徒ひとりひとりの課題が生徒自身により一層見えたことを生かし、引き続き短期の課題解決に取り組む。

#### 取組内容②【施策4】

校内調査において、「授業はよくわかる」と肯定的に答えた生徒が 87.7%、「先生に質問しやすい」と肯定的に答えた生徒が 80.3%であった。目標を達成したが、今後も、教材研究を進め、習熟度別授業により適した内容、方法を工夫する。

#### 取組内容③【施策5】

引き続き、授業開始時の準備運動を行い体力・運動能力の向上に努める。

大阪市立大和川中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]</p> <p>○年度末の校内調査における「日々の学校活動や授業、家庭学習の中で学習者用端末やICT機器を活用している」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を80%以上にする。</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を60%以上にする。また、基準2を満たす教員の割合を85%以上にする。</p>	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の育成】</p> <p>ICTを活用した授業づくり（次世代学校支援事業支援モデル校）</p> <p>指標：ICT活用によりわかりやすい授業づくりを展開し、チャレンジテスト（1,2年生）における正答率を大阪市平均に近づける。</p>	B
<p>取組内容②【施策7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を85%以上にする。</p> <p>指標：「仕事と生活の両立支援プラン」等も踏まえ、性別に関係なく教職員が働きやすい環境づくりを行う。</p>	B
<p>取組内容③【施策8 生涯学習の支援】</p> <p>子ども相談センター、警察機関、区役所（地域子育て支援）やスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと連携を深め、相談活動を進める。また朝読をはじめ、読書文化の継承と更なる推進を図る。（図書館、図書紹介、読書感想）</p> <p>指標：住吉区学警連絡会等と生徒の情報交換を行い、指導の方向性を確認する。</p> <p>校内での不登校生徒を減らし、暴力行為件数のゼロ件を継続する。全国学力・学習状況調査の「授業時間以外での1日あたりの読書時間30分以上」を令和5年度より10ポイント向上させる。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p><b>取組内容①【施策6】</b></p> <p>GIGA端末を活用し、新学習指導要領に準拠した授業授業つくりを学校全体として進めている。目標としているチャレンジテストについては現段階で1・2年生の結果が出ていないため年度末反省時に総括する。</p>	

## 取組内容②【施策 7】

9月末時点における「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1および基準2を満たす教職員は全体の75%であった。昨年(66.7%)より大幅に増加できた。年度末に向けて、改めて働き方改革に取り組む。

## 取組内容③【施策 8 生涯学習の支援】

学警連絡会にて他校・警察・保護司・子相と情報交換し、校内でも共有している。

今年度は、学警後に生徒指導主事で集まり、各校の校則についても意見交換を行ってきた。

また、定期的にスクリーニング会議を実施することで区役所(子育て支援)と情報の共有をしている。

## 次年度への改善点

## 取組内容①【施策 6】

学校全体としてGIGA端末の活用・教育DXの実践を共通認識し、実践する。校内研修や企業研修を通じて意識の向上を図る。

## 取組内容②【施策 7】

「仕事と生活の両立支援プラン」等に沿い、教職員に健康に留意した働き方を今後も支援していく。長期休暇での有休取得促進を行う。また日々の健康障害防止機能の確認をすすめるなど、声掛けや健康管理の意識向上を教職員全体で図る。

## 取組内容③【施策 8】

学警の情報を、校内研修会等で活用していく。

巡視等、住吉区の中学校で連携する取り組みを実施していく。

「授業時間以外での1日あたりの読書時間30分以上」と答えた生徒が22.3%と前年度より10.5ポイント向上した。今後も各学年において実施した朝読書、休み時間の図書室の利用など図書コーディネーター、司書とも連携しながら、読書への興味・関心を引き出していく。

令和6（2024）年度

# 運営に関する計画

- （1）教務部
- （2）各教科
  - ①国語科
  - ②社会科
  - ③数学科
  - ④理科
  - ⑤音楽科
  - ⑥美術科
  - ⑦保健体育科
  - ⑧技術・家庭科
  - ⑨英語科
- （3）生活指導部
- （4）健康整備部
- （5）道徳委員会
- （6）進路委員会
- （7）教育課題検討委員会
- （8）特別支援教育
- （9）ICT委員会

大阪市立大和川中学校

## (1) 教務部

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した  
 C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容 (指標)	達成状況
①教務 教育活動を滞りなくおこなうことができるよう、教務作業を進める。 指標 ・年間行事、月中行事、時間割、補欠割り当て、日課表、テスト範囲、テスト計画、テスト監督表、問題解答保管、素点一覧管理、成績一覧管理、チャイム、出席統計、時数統計、転出入処理、生徒名簿作成、要録管理、教育実習、教科書、副読本、視聴覚、進路等についての作業 ・上記作業についての知識の伝達	B
②校務 ICT 校務系仮想 PC 上の作業についての理解を深め、職員全体に共有する。 指標 ・校務 ICT システムの活用研究 ・必要な研修の実施	B
③カリキュラム調整 教育課程と行事予定について調査と調整をおこない、時間割を改善する。 学習指導要領に基づき、各教科の評価基準について調査と検討をおこなう。 指標 ・習熟度別授業に合わせた時間割の立案と改善 ・授業時数確保のための時間割調整 ・次年度評価基準の作成	B
現状と分析	
① 滞りの無いよう教務作業を進めることができた。 ② 校務系 ICT システム上の作業において職員の理解度が高いため研修等は実施していないが、教務作業については円滑に作業ができるように部内で情報共有している。 ③ 特別時間割の期間に授業時数の調整を行うことができた。	
次年度への改善点	
現状の取組内容のレベルを高めることが課題である。 授業時数の調整については、特に後期はコマ数の差が開かないように調整できたが、調整のタイミングまでの間に授業者が丁寧に指導するなどで進捗を合わせようすると、調整後に進捗が逆転してしまう現象が見られた。それを防ぐためにも、特別時間割を実施する旨をきちんと周知する必要がある。	

## (2) 教科の重点① [国語]

目標：授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
① 【基礎学力の定着】漢字学習に重点的に取り組み、基礎学力の定着を図る。	B	
② 【言語能力の育成】音読やスピーチ、作文の時間を年間15時間以上取り入れ、言葉の大切さや楽しさを学ぶ。	B	
③ 【個に応じた学習指導】提出物の完成を目指し、個に応じて提出を支援する。	B	B
④ 【自主学習習慣の定着】テスト前一週間は始業前や放課後等を活用して、自主学習を支援する場を提供する。	B	
⑤ 【習熟度別少人数授業の実施】生徒の現状を把握し、個別に最適な授業を展開する。	B	

## 現状と分析

- ①各学年、週末課題や単元テスト前において漢字プリント作成、授業内で小学校の漢字の復習に取り組んでいる。また、習熟別授業で特に文法や語句などの知識の問題にも積極的に取り組み、基礎学力の定着をはかっている。
- ②定期テスト、単元テスト、また課題としてや、週末課題として作文指導を行っている。起承転結に成り立っての文章構成や、課題に適した文章作成など、生徒たちは前向きに取り組んでいる。3学年共に300字作文は書ききることができるよう指導を継続して行っている。
- ③漢字プリントの提出をはじめ、ワークやその他プリントの提出率は、上がっている。しかし、なかなか完璧に仕上げることが難しい生徒もいるため、プリント作りの工夫をこらしながら、声掛けを継続的に行う。
- ④各学年自主的に取り組める課題を配布している。テスト前の補習も行うことができている。
- ⑤引き続き、わかりやすい授業のため教材研究を継続していく。

## 次年度への改善点

- ・国語科としての習熟度別授業、クラス2分割授業の在り方を考え、最善の方法を模索する。
- ・日々の学習で身についた知識を、スピーチや発表等において、自分の言葉で表現ができるよう、今後も積極的に取り組んでいく。

## (2) 教科の重点② [社会]

目標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【基礎学力の定着】 授業準備・規律を徹底し、日々の学習習慣を育成するとともに、個別に最適な学習に取り組むことを目指す。	B
② 【発信力の育成】 班活動などのアクティブラーニングを通じ、自ら疑問について調べ、共有し、発信できる学習機会を授業の3割程度確保する。	B
③ 【習熟度に応じた学習指導】 定期的に単元テストや小テストを実施し、その内容に合わせた補習や教材提供を行うことで、チャレンジテストでの対市平均の数値上昇を目指す。	B
④ 【自主学習習慣の定着】 ドリルの活用や自主学習ノート、またプリント学習について、すべて自主提出とし、主体的に学習に取り組む習慣の育成を目指す。 (自主提出であるが提出率80%以上になるようマネジメントを行う。)	B
⑤ 【情報活用能力の育成】 GIGA 端末を活用し、プレゼン作成や調べ学習、パフォーマンステストの場面で、ループリックに則した成果物が作成できているかを評価することで、情報活用能力の育成を図る。(パッケージ提供も並行して行い、インクルーシブ学習への取り組みも進める)	B

## 現状と分析

- ①授業準備・規律を徹底し、学習環境を整えることができている。  
②自分自身で、考えたことをまとめ、グループで共有する時間を確保できている。班活動を繰り返し行うことで、活発に意見交流できるようになってきている。  
③単元テストを実施し、それらや定期テストの結果を基に長期休暇を利用して補習を実施した。  
④定期的に課題を設定し、提出率が80%以上となるように声掛けを行った。  
⑤プレゼン作成や調べ学習において、端末を活用し、また情報モラルなどに関する授業も行った。

## 次年度への改善点

- ・確かな学力を身に着けるために、課題の提出の習慣化に取り組む。
- ・班活動の実施により、深い学びの時間を多く確保できるようにカリキュラムマネジメントに取り組む。
- ・今現在の環境で実施できているグループワークや調べ学習などが、次年度は引き継ぎが難しいと予測できるため、手法を考えながら、同時間の確保を行う。

## (2) 教科の重点③ [数学]

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【基礎学力の定着】 前期中間テストまでは計算問題の基礎に特化した授業を行う。 また、要点をまとめたものを別途用意し、より分かりやすく生徒へ提示することで効率の良い学習へ繋げる。	B
② 【言語力の育成】 ICT 機器などを活用し、協働的な学びを通じて数学的知識の定着を目指す。	B
③ 【個に応じた学習指導】 到達度別学習課題を作成し、個に応じた学習支援を行う。 また、定期的に学習状況を分析し、個に応じたコース編成を行う。	B
④ 【自主学習習慣の定着・定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 自主学習課題を設定し、個に応じた課題も設定する。	B
⑤ 【習熟度別授業の実施】 学年全体において、学習到達度に応じた習熟度 3 分割授業を行う。	A

## 現状と分析

- ① 前期中間テストまではクラスごとに授業(TT)を行い、基礎を中心に学習させることができた。
- ② パワーポイント、エクセルなどのツールやデジタル教科書を用いて授業を展開することができた。
- ③ 習熟度コース別に個に応じた課題を作成し、主体的に取り組めるよう学習支援を行った。
- ④ ドリルプリントやワークなどを活用し、学習課題を設定している。また、デジタルドリルの活用も取り入れた。
- ⑤ 全学年で 3 分割の習熟度別授業を実施しているが、その中でも学習内容の理解度についての差が大きく、個別の支援が必要な生徒がいる。

## 次年度への改善点

- ・各学年の A コースでは、できるかぎり教員 2 名体制で授業を行った。来年度は習熟度の分け方を変更し、できる限り 2 名体制で臨みたい。
- ・昨年度の反省を受け、前期最初の習熟度別授業に移行する際、進捗状況の共有をし、単元ごとに情報共有を行った。

## (2) 教科の重点④ [理科]

目標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
①【基礎学力の定着】 a. 毎時間の授業の目標と既習事項をはっきりさせる。 b. 基礎的な知識の小テストや単元ごとに単元テストを実施し、学力の底上げを目指す。	B
②【言語力の育成】 生徒の素朴概念を科学概念へと発展させる「発問」を工夫し、授業に組み入れ、発表やグループワークを行う。	B
③【個に応じた学習指導】 a. 必要に応じて補習を行い、個々の学習進度に対応する。 b. ICT、演示実験などの教材を工夫し、体験的な教材や生徒による観察・実験などを単元毎に実施する。	B
④【自主学習習慣の定着・定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 家庭において計画的に学習する習慣を身につけさせるため、ICT や演習プリントを活用する等して単元ごとに課題として提示し、確認する。	B

## 現状と分析

- ①a. 毎時間の授業の導入・終わりに既習事項の確認、本時の目標を提示している。  
b. 各学年、各単元で小テスト、単元テストを実施している。
- ②理科室での取り組みやデジタル教材の活用により生徒の興味・関心を高め、発表や話し合いを行わせた。また、夏休みの自由研究等で様々な単元で発表の場を設けることで、一人一人が発表する機会を与えることができた。
- ③a. テスト結果を分析した上で、長期休暇や放課後を利用して低学力の生徒や希望する生徒を対象に補習を行った。  
b. 理科室での実験はもちろん演示実験やデジタル教材を用いて指導を行っている。
- ④家庭学習習慣定着のために週末課題や単元ごとの課題を与え、提出させている。

## 次年度への改善点

- ・グループワークを行ったが、話し合いで詰まる場面も見られるので、議論できるくらいの知識を身につけさせる必要がある。また、科学的思考が身に付くよう発問や授業形態についても研究し、「理科好き」の生徒を増やしていく。
- ・各授業の導入・内容・まとめの組み立て方をもう一度見直し、子どもたちの興味・関心を引き出す授業作りを行っていく。さらに、効果的に記憶に定着できる仕掛けも考えていく。
- ・学力向上のためにテスト前の補習等を行った。補習を受け続けた子どもや積極的に質問してくれる子どもは一定の効果が点数に表れていた。しかし、補習をしなくてもいいくらい、日々の授業をわかりやすいものになるよう見直していく。また、百問練習や外部テストを用いた分析を基に、弱点部分の補強を行い、基礎的な内容の反復学習を継続していく。

## (2) 教科の重点⑤ [音楽]

目標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【基礎学力の定着】基礎学力を定着させるために、授業内で歌唱、器楽、鑑賞、プリント学習を行い、音楽の基礎的な学力や技術を身につける。	B
② 【言語力の育成】 言語活動の育成として、音楽に関する批評文を書かせ、音楽に対する思いや意図を言語で表現できるようにする。	B
③ 【個に応じた学習指導】毎時間、歌唱を行い、読譜の苦手意識を克服できるようアドバイスを行う。全員が技術を習得出来るよう、声掛けを行う。	B
④ 【自主学習習慣の定着】【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 基本的な知識と技術の定着を図るため、長期休業中に課題をだし、家庭での練習習慣を身につけさせる。	B
⑤ 【規律、習慣付け】毎時間の振り返りを具体的に批評できるようにする。	B

## 現状と分析

- ① 基本的な音楽知識は3学年とも定着しつつあるが、それをうまく表現できる技術をつけることが課題である。合唱コンクールでは楽譜に書かれていること以外をどのように表現するかを考えるいい機会となった。
- ② 1年生は特に4月に比べ、知覚・感受したことをことばで表現することが少しずつではあるが上達してきている。
- ③ 創作活動・リコーダーでは机間指導を重点的に行った。合唱はパートリーダーに役割を与え、自主的に活動できるようにした。
- ④ 長期休業課題では、自分の好きな音楽をジャンル問わず紹介させた。多岐にわたる音楽の良さを生徒の言葉で表現し、それを共有することで「なぜ」この音楽が好きなのかを改めて考える機会を作った。
- ⑤ 音楽を形作っている要素を参考に自分の考えを提出させている。

## 次年度への改善点

- ・授業の歌唱でのグループ活動を増やし、卒業合唱につながるように取り組ませる。
- ・表現することの楽しさを知り、多種多様な音楽を理解させていく。
- ・器楽活動の取り組みが主体的になるよう、教えあいのできる時間を作る。

## (2) 教科の重点⑥ [美術]

美術の表現活動と鑑賞活動を通して、身近な生活の中にある美しいもの、価値のあるものを感じ取る感性を育み、よりよいものを求めて自分なりの意味あるものとして表現していく態度の育成と準備力・創造力・集中力の定着を図る。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【基礎学力の定着】年間で作品を3点制作させる。3年間を通して計画的に作品づくりを行い、準備力・創造力・集中力の定着を図る。	B
② 【言語力の育成】作品制作後のまとめや鑑賞レポート作成や発表を行い、美術的な感動を言語によって表現する力を養う。	B
③ 【個に応じた学習指導】生徒に対する助言や技術的指導を丁寧に行い、制作中の作品に対するこだわりや悩みを細かく拾い上げる。	B
④ 【自主学習習慣の定着】作品制作を進める中で、生徒ごとに作品制作にかかる時間に時差が生じるため、各学年、各学期放課後の補習時間を設ける。	B
現状と分析	
① 準備力・創造力・集中力をバランスよく伸ばす学習の定着ができた。学習能力の定着に課題の残る学年も授業や補習等に積極的に参加する姿が見られた。 ② 全学年に作品制作後のまとめや鑑賞レポート作成や発表に Classroom でのまとめを取り入れ、積極的に自身の作品について表現する力を着けることができた。 ③ 彫刻刀を使った授業も安全面に行うことができている。 ④ 「振り返りシート」の定着により、生徒の「つまづき」を自身でくみ取り、見通しをもって完成に向かう力がついた。	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季の学習室使用の準備と他教科との調整。</li> <li>・グループワークなど、より主体的に活動できる学習の機会を多く設ける。</li> </ul>	

## (2) 教科の重点⑦ [保健体育]

目標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかつた D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかつた

取組内容（指標）	達成状況
① 【基礎学力の定着】 集団行動を徹底して行わせる。 各種目の特性やルールを理解させ、安全に学習を行う態度を身につけさせる。 毎時間、補強運動を行わせ基礎体力を身につけさせる。特に俊敏性と柔軟性が 大阪市平均より劣るので、その能力を高める。	B
② 【言語力の育成】 生徒同士で励ましたり、教えたりできる学習環境を整え、積極的に声をかけあ える学習を取り入れる。集団や自分に適した課題解決のために、ワークシート を用いて解決方法を考えさせ、毎時間振り返り、生徒たちの前で発表させる時 間を1時間に1回以上つくる。	B
③ 【個に応じた学習指導】 習得技能に応じて課題を設定し学習に取り組ませる。	B
④ 【自主学習習慣の定着】【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 体育委員と班長を中心に準備運動や用具の準備、片付けなど積極的に行わせる。 体力の保持増進のために基本的生活習慣を身につけさせる。	B
⑤ 【体力向上の推進】 全国体力・運動能力、運動習慣調査で「長座体前屈」「反復横跳び」の項目を昨 年度より2ポイント増加を目指す。（大阪市平均を上回る）	B

## 現状と分析

## 【基礎学力の定着】

各学年、男女ともに様々な種目に取り組むことができた。4月当初は少しランニングやトレーニン  
グをすると、しんどくなっていた生徒も余裕をもって取り組むことができるようになった。

## 【言語力の育成】

授業クラスの組み合わせがいつも違っているので、先に新しいことを習っているクラスが、まだ  
習っていないクラスに教えたり、一緒にグループにして活動したりすることで積極的に動こうと  
する生徒が増えた。また、毎時間振り返りを行い、感想を班で発表したり全体の前にでて発表し  
たりできている。

## 【個に応じた学習指導】

同じ種目でも学年によって授業内容を変えたり、子どもたちにとって無理のないように、そして  
ちょっと頑張れば達成感を味わえるような授業づくりを考えて行っている。

**【自主学習習慣の定着】【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】**

次のことを考えて行動できるようになってきており、準備、片付けは生徒中心で行うことができている。

**【体力向上の推進】**

中学2年生の体力テストの結果は、腹筋とシャトルランにおいては大阪市と全国平均を大幅に上回る結果となった。特に男子は長座体前屈以外大阪市、全国平均を上回った。

次年度への改善点

- ①授業前は、5分前には集合できているが授業後の更衣が遅く、次の授業に間に合っていないことが多いあるため、引き続き指導していきたい。
- ②振り返りの時間をとっていくことと、チャイムが鳴るまでに片付け等終わらすことができるようする。
- ③入り込みの先生とも協力して個に応じた学習指導を心がける。
- ⑤準備運動の細かい部分の指導を行う。体育委員や班長が中心となるような活動を増やしていき、活動を行う。

## (2) 教科の重点⑧ [技術・家庭]

目標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【基礎学力の定着】 定期的な小テストを3回以上実施し、平均正答率を70%以上にする。 振り返りシートを活用し、知識の定着、新しい発展した学習を育む。	B
② 【言語力の育成】 実習レポートまたは発表を年間3回以上取り組み、課題を解決するための考え方や工夫を書かせることによって、言語力の育成を図る。	A
③ 【個に応じた学習指導】 実習時的新端末を取り入れた授業展開、生徒の様子を見ながら声掛け等を行う。 定期的な班活動、必要に応じて補習を行う。	B
④ 【自主学習習慣の定着・定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】 長期休暇中に課題を設定するなど、学習をより身近なものへと活用する自主的な学習習慣の定着を図る。	B

## 現状と分析

- 各項目において重要な知識の部分については、繰り返し小テストを行い各学年目標回数以上取り組むことができている。
- 発表などをレポート用紙や、コラボノート、Word、PCソフト等のICTを活用しながら取り組むことができた。自己の意見や考え方をまとめる力や発信する力が身についた。
- 実習時や普段の学習でも班活動を取り入れ、他者の考えを知ることや、互いに教え合う時間が主体的な学びへとつながっている。
- 家庭学習等も適宜取り入れ、学習した内容を自宅に持ち帰り実践することで、新たな発見や気づき、日ごろやってくれていることに対する感謝などを感じる生徒も増えた。何かを始めるきっかけづくりもでき、その後も継続して興味を持ち取り組むことができている。

## 次年度への改善点

- ほとんど毎時間小テストを実施でき、基礎学力の定着が結果から読み取れた。定期テストが少ない分、実施できる頻度を今後も増やしていきたい。
- 3年生の授業確保が後期は難しいため、偏らず授業時数を確保したい。
- 授業の中でICT機器を取り入れ、情報を収集する能力、精査する能力をともに養っていく。
- 班活動を豊富に取り入れた学習展開を引き続きしていく。
- 家庭科では食育事業の一環で、大阪公立大学や区役所と連携し取り組みを行ってきたが、時間配分や確保が難しい部分もあるため次年度以降も計画的におこなっていきたい。

## (2) 教科の重点⑨ [英語]

目 標： 授業規律を徹底させ、学習意欲を向上させる授業づくりを進める。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 【基礎学力の定着】授業の「基礎・基本」にあたる内容の確認を目的とした単元テストや小テストを定期的に行い、知識の定着をはかる。	B
② 【言語力の育成】英語によるアウトプットが多く取り入れられた授業を行い、パフォーマンステストを実施する。C-NET での Team Teaching による授業を年間 15 時間以上実施する。	B
③ 【個に応じた学習指導】到達度別学習課題を作成し、個に応じた学習支援を行う。	B
④ 【自主学習習慣の定着】毎時間プリントなどの課題を与え、授業内にその課題への取り組みを確認する。また、取り組みが不十分な生徒に対する指導を行う。	B
⑤ 【習熟度別少人数授業の実施】学級内習熟度別授業を効果的に実施し、ボトムアップを目指す。	A

## 現状と分析

- 単元テストの他に、単語テストや英文テストを毎時間実施し、「基礎・基本」の定着をはかった。必要に応じて再テストも実施した。
- ペアワークやグループワークを積極的に取り入れ、既習事項のアウトプット頻度を増やした。また歌のテストやリーディングテスト、C-NET によるスピーキングテストも実施した。
- 難易度を変えたプリント教材を準備し、基礎・基本の定着のみならず応用力が身につくように努めた。T・T の授業では、理解度が低い生徒について学習支援を行った。
- 家庭学習習慣と既習内容の定着や復習のため、目的に応じたプリント課題とデジタル課題の両方を出し、未提出生徒への声掛けも行った。
- Team teaching と学級内習熟度別授業で生徒の理解度を高めボトムアップを目指した。その成果は、チャレンジテストや GTEC の結果で実感できた。

## 次年度への改善点

- \* 帯活動なども取り入れ、「基礎・基本」の定着に、努める。
- \* 英語を「楽しく」学べるように、教材研究や C-NET との活動内容に工夫を凝らしていく。
- \* 個に応じた学習指導を促進すべく、状況に応じた学級内習熟度別学習授業や分割授業を柔軟に実施できるようにしていく。

## (3) 生活指導部

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した  
 C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
<b>学力向上 ④【 小中一貫教育の推進 】</b> 9年間を通して、めざす子ども像「場に応じたあいさつがしっかりできる生徒を育てる」を目標に、教育内容を充実させる。	B
<b>指標</b> 連携行事（中1情報交換、体験学習、部活動体験学習）実施 教職員研修（道徳、ピア・サポート、メンター研修等） 2回 教員相互授業参観の実施 3回	B
<b>道徳心 社会性の育成 ②【 規範意識の向上 】</b> ○「言葉づかいは心づかい」「元気よく・気持ちよく、あいさつしよう」の実践。身だしなみを整え、生徒自らに『時間を守る』姿勢を身につけさせる。 ○体罰根絶への指導体制を確立させ、生徒理解を深める研修会および相談活動の実施	B
<b>指標</b> 登校遅刻ゼロの達成、チャイム着席の定着、正しい服装の着こなしの徹底 生徒会中心による「生徒議会」の実施、「生活指導研修会」実施 4月随時 生徒理解を深める「教育相談活動」年3回、随時体罰ゼロの教育活動を推進する	B
<b>道徳心 社会性の育成 ④【 防災教育の推進 】</b> 「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。各種マニュアルを策定する。	B
<b>指標</b> 火災、震災訓練の実施。地域別の防災訓練。下校訓練。	
<b>道徳心 社会性の育成 ⑤【 不登校傾向生徒への対応 】</b> ・生徒の状況把握を図り、全教職員で共通理解し、個別の具体的な手立てを講じる。 日常的に情報の共有、共通理解を行い、生徒の心の変化を早期に把握する。 ・生徒一人一人の状況に応じた、個別最適な対応。	B
<b>指標</b> 週1回 不登校傾向生徒の状況把握。改善方針の確認。 月1回 全教職員と状況把握。 「生徒ボード」を活用した生徒の情報共有と把握。	
<b>健康 体力の保持増進 ③【 健康に関する指導の推進 】</b> 発達段階に応じた健康に関する指導を系統的に行う。	B
<b>指標</b> 学級活動、保健体育の授業、総合の時間を活用して、薬物、飲酒、喫煙に関する学習会を行う。（全学年3回）（外部指導者を含む）	

## 現状と分析

学校生活、特に授業規律に関しては今一度、教職員で共有していく。

学校外トラブルに置いては、今後も外部機関と連携しながら注意していく必要がある。

不登校生や登校後の入室が難しい生徒などへの対応なども引き続き、チャレンジルームや区役所とも連携を取りながら継続していく。

また、学警連絡会の内容を全体共有する取り組みは今年度も引き続き行っている。

## 次年度への改善点

大きな生活指導の案件は減少傾向にあるが、日常の小さなトラブルに目を向ける必要がある。生徒の学校や授業への慣れから起きている事案もあるため、授業規律・黙想・黙食・黙働清掃など、日々の活動での「凡事徹底」を全職員で共通して意識することが必要不可欠である。また、不登校生徒ともこれまで以上に密に連絡を取っていく。

## (3) 健康整備部

評価基準 A : 目標を上回って達成した  
 C : 取り組んだが、目標を達成できなかった

B : 目標どおりに達成した

D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
① 健康・体力の保持増進  食に関する知識と食習慣を身につけるための教育活動を進める。	B
指標 食育通信の発行 8回  小中連携した食育推進連絡を行う。（年2回）  長期休業中、食育調査を行う。	B
② 学校・家庭・地域の連携  学校・家庭・地域の繋がりを深めるために各関係諸機関と取り組みを進める。	B
指標 救急救命法（AEDを含む）の講話を年一回実施する。  学校保健委員会の活動に参加する。	B
③ 感染症対策  免疫力を高めるために、基本的生活習慣を身につけさせる。  消毒作業の徹底、学習環境を整える。健康観察表の確認を通じて、学校の規律に沿った指導を行っていく。	B
指標 学年集会等で啓発活動を行う。  登校時の健康観察結果の確認、記録簿を管理し情報共有する。  1日1回以上消毒する場所と使用状況に応じて消毒する場所を分けてチェックリストに記録・管理する。	B
現状と分析	
<p>保健だよりと食育通信を発行し、現在10号まで配布済み。</p> <p>大阪公立大学、住吉区役所と連携し食育活動を実施。その一環として取り組んだ朝食作りの作品を区役所、校内等で展示。連携事業により骨密度チェックも実施。</p> <p>7月に普通救命講習を実施。（部活動支援員を含めた26名が参加）</p> <p>パソコン教室の粗大ごみを処分し、現在は絨毯の張替え、床の配線器具の取り除き等を管理作業員さんが行ってくれている。来年度中にはきれいな状態で使用できる見込み。</p> <p>食事前の手指消毒等、各自意識して取り組んでいる。学習環境を整え健康維持を目的として「美化新聞」の発行を美化委員会で行い、現在4号まで発行済み。各教室と美化ロッカーに掲示している。</p>	
次年度への改善点	
<p>普通救命講習の実施については今年度と同様に7月頃を考えている。実施についても応急手当普及員による講習を予定している。</p> <p>次年度も日々心の天気の活用によって生徒の健康状態等を把握できるよう、ICT委員会とも連携し継続的な実施に向けて取り組みたい。</p>	

## (5) 道徳委員会

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した  
 C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
<b>道徳心・社会性の育成 ①【道徳教育の推進】</b> 道徳委員会を中心に年間指導計画を作成する。 生徒一人ひとりに、「自分の生き方を見つめ直し、多角的・多面的に物事を考えられる生き方ができるようにしていく」という課題設定で実践を行う。	
<b>指標</b> ① 道徳授業(年間35時間の実践) ② 公開授業の実施 ③ 原則、教科書による授業を実践し、授業終了後、生徒に感想シートを書かせることにより、生徒の理解度を把握する。	B
現状と分析	
① 年間35時間実施を目指した。 ② 全学級で公開授業を実施し授業展開や手法を交流することにより、全員で道徳授業のスキルアップに取り組んだ。また多角的・多面的に物事を考えることができるよう、積極的にペアワークやグループワークを取り入れた。 ③ 教科書を用いた授業後に感想シートを書かせ、生徒の理解度の実態把握後、コメントを添えてフィードバックすることも多々あった。	
次年度への改善点	
• 授業時間の確保。 • 基本的に内容項目の番号の若い順から授業を実施していくつつ、行事等とリンクさせてより効果的な道徳授業をすすめていく。 • 授業後の評価入力。	

## (6) 進路委員会

評価基準 A : 目標を上回って達成した  
 B : 目標どおりに達成した  
 C : 取り組んだが、目標を達成できなかった  
 D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
<b>道徳心・社会性の育成 ③【キャリア教育の推進】</b> キャリア教育年間計画に沿って、系統立てた教育内容を推進する。	B
<b>指標</b> 職業講話（1年）職業体験（2年）高校出前授業体験（3年）	
<b>現状と分析</b>	
1年生 6月にはさまざまな職業を知り、自分の好奇心の対象を見つけ「なりたい自分」をイメージするとともに、自分が将来働くにあたって、どういったことに重きをおいて仕事を選びたいかということについてグループワークを行うなど、働くことの意義を考えるきっかけとした。また、身近な大人に職業インタビューを行い、そのまとめとして、各自新聞作りに取り組んだ。12月には職業講話を実施し、様々な職業についての理解と関心を深め、将来への展望を持つことができるようになった生徒も増えた。	
2年生 9月にはS Pトランプの出前授業で自分の適性や強みを知り、進路への関心を高めるきっかけとした。11月末には職業体験を実施し、実際に現場で働く体験を通して、仕事や働くこと、社会について理解を深め、自分の進路・将来について考える機会となった。	
3年生 7月に高校による出前授業を行い、進路への関心を高め、考える機会になった。また、個人校長面談を通して、自分と向き合い、進路を考えるきっかけとなった。9月には興國高校による面接講座を行い入試に向けての心構えを示していただいた。12月にはグループでの校長面談を行い、客観的に自己を見つめ直す機会となった。	
<b>次年度への改善点</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇引き続き、外部講師による講話や体験などを有効に活用する。職業講話の講師などの外部講師については、どの学年でも依頼しやすいような大和川中学校独自の人材バンク、人材の蓄積を行っていく。また、子どもたちの可能性が広がる講話先を考えていくことが重要である。</li> <li>◇「キャリアパスポート」については、各学期の節目に振り返りを行い、それを次年度以降に活かしていくよう、引き続き活用を図っていく。</li> <li>◇子どもたちが迷いなく進路選択ができるよう、3年生になるまでに職業や高校などの知識を身につけさせるキャリア教育を模索する必要がある。</li> </ul>	

## (7) 教育課題検討委員会

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した  
 C : 取り組んだが、目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況
<b>課題の把握と解決</b> ・学校の現状を把握するとともに課題を検討し、それらの解決に向けて取り組む。	
指標 週1回の主任会 生徒および教職員アンケートの実施 カリキュラムの編成 年間行事予定作成に向けた検討 学力向上に向けた習熟度別授業の実施と課題 中間反省・年度末反省での意見交換	B
現状と分析	
現状や課題の把握、検討をおこない、学年や各部、各委員会、各教科でそれぞれ課題をだし、解決に向けて取り組むことができている。	
次年度への改善点	
アンケートをもとに隨時、軌道修正しながら下半期や次年度のカリキュラム編成、年間行事の作成に生かす。	

## (8) 特別支援教育の重点

目 標： 社会的な自立能力向上のため、各関係機関との連携もより強化し、「個別の教育支援・指導計画」をさらに充実させ、安心できる学校をつくる。

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが、目標を達成できなかつた D：ほとんど取り組めず、目標も達成できなかつた

取組内容（指標）	達成状況
① 【個に応じた学習指導・基礎学力の定着】 生徒一人一人の障がいや発達段階、学力に応じた学習課題を厳選して設定し、それらを毎時間見直して、基礎的な知識・理解・技能等を伸ばし、生活に活かせる力をつける。	B
② 【基本的生活習慣の確立・健康な生活習慣】 基本的な生活習慣と生活態度をより一層育て、健康で楽しい学校生活が安心して送れるようにする。	B
③ 【社会参加促進】 集団活動に参加しようとする意欲を養い、好ましい人間関係を育てる。	B
④ 【個別の教育支援・指導計画について】 保護者の100%参画を促し、計画の内容について保護者の意見を十分に聞いて計画を作成する。「個別の指導計画」に基づく指導を実施し、中間評価・最終評価を行う。 スキップでの「個別指導の記録」の内容を充実させ、それらを全教職員で共有し、個別の支援・指導に活かす。	B
⑤ 【研修について】 全教職員への特別支援教育研修を、年間1回以上実施するとともに、障がいに対する知識・理解の促進、啓発を行っていく。 特別支援教育委員会・職員会議等で、毎月1回情報交換を行う。	B

## 結果と分析

①②生徒個々の能力に応じた支援・指導で、学校生活における基本的生活習慣・態度が養われ、登校できなかつた生徒も少しづつ登校でき、別室や教室でテストを受けることができた生徒もいた。  
③泊を伴う校外活動、体育大会や文化発表会などの学校行事、習熟度別授業を通して、通常学級の生徒と関わる機会があり、仲間と協力して自分らしさを発揮して自立へ向けて成長ができた。また、作業学習や園芸を通して自分でできることを増やしたり、仲間と協力することの大切さを知ることができた。  
④「個別指導の記録」を策定し全職員に公開し、特別支援学級からの情報発信を行うことができなかつた。  
⑤年度初めに特別支援研修会を実施した。職員会議等で毎月1回の情報交換を行うことができた。

## 次年度への改善点

- ・時間割を工夫して自立能力の向上や基礎学力の定着を目指し、生徒それぞれの課題を設定し達成せられるように計画していく。
- ・通常学級担任、保護者、関係諸機関との連携を図り、長欠生徒や教室に入れない生徒に対して一緒に改善策を検討し、粘り強く対応していく。また、特別支援に関する研修等を必要に応じて行う。
- ・校務支援パソコンを活用し、個別の支援・指導を閲覧することで全職員が共通理解を行う。

## (9) ICT 委員会

評価基準 A : 目標を上回って達成した  
 B : 目標どおりに達成した  
 C : 取り組んだが、目標を達成できなかった  
 D : ほとんど取り組めず、目標も達成できなかった

取組内容（指標）	達成状況	
①ICT 活用の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい機器やソフトが滞りなく導入できるように、必要な研修を適宜行う。</li> <li>ICT 活用の研究を行う。</li> </ul>	B	B
指標 ICT 研修の実施、ICT 活用能力の向上		
②機器管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>管理台帳の作成をし、機器の保守点検や確認を年2回行う。</li> </ul>	B	
指標 機器管理台帳の更新、運用		
現状と分析		
<p>①ICT の使い方や、新規導入された学習ツールの研修を実施した。今後も改めて学習ツールの研修を実施予定である。</p> <p>②タブレットに関するアンケートを取り、管理している。後期にも実施し、管理台帳の更新を行う。</p>		
次年度への改善点		
<ul style="list-style-type: none"> <li>故障機の連絡を素早く行い、端末の管理が常に最新の情報になるようにする。</li> <li>ICT 支援員の方と連携し、ICT の活用を幅広く展開したい。また、支援していただく内容を増やしていきたい。</li> </ul>		